

第3回 日本発達神経科学学会 開催によせて

2014年10月18日から2日間東京大学情報理工学系研究科國吉康夫教授のもと、第3回大会が開催されることを心よりお喜び申し上げます。本学会は、発達神経科学に関連した研究者が、臨床、基礎の壁を乗り越えて一堂に会して討議できる絶好の場所です。大会のテーマも國吉先生に選んでいただき「脳幹・辺縁系から考える初期脳発達と障害」と興味深いものになりました。先進的な研究成果が発表されます。各方面の研究者がこの領域でさらにネットワークを広げ研究が向上するものと確信しています。



2014年10月

理事長 獨協医科大学越谷病院子どものこころ診療センター 作田亮一

第3回目となる今年の学術集会では、「脳幹・辺縁系から考える初期脳発達と障害」というテーマを設定し、特に胎児期・新生児期からの脳発達と身体・環境の具体的関係性、および発達予後との関係に焦点を当てました。これは、共催者である新学術領域研究「構成論的発達科学」の進展に伴い明確化されてきた焦点でもあります。同領域は当学会と発足時より密接に連携して参りましたが、今年は中間折り返しの節目にあたり、特に同領域全体会議と相互乗り入れする形で、緊密な連携企画としました。上記テーマは世界的に見ても先進的なため、基調講演やシンポジウムの企画に際して、ご担当の先生方に相当のご苦労がありました。快くご講演をお引き受け下さった先生方、ポスター発表に積極的にお申し込み頂いた先生方、有意義なご議論を頂く参加者の皆様方、そして、今回の企画および運営にご協力頂いた先生方、スタッフ、学生諸君、に深く感謝いたします。

2014年10月

第3回学術集会会長 東京大学大学院 情報理工学系研究科 國吉康夫

